

講義名	中国語講読					授業形態	
担当教員	森 宏子	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3 時限				
		単位数	2	履修開始年次	2 年生	ナンバリング・コード	CH1203

主題と概要
日本人が中国語を学ぶ上でのメリットはなんといっても漢字が分かること。そのため、私たち日本人にとって、中国語の講読は学びやすく、初級者でもけっこうボリュームのある文章が読めるようになりま す。 この授業では、前半を基礎編とし、テキストを使用して規範的な文章を読んていきます。後半は応用編とし、日本の昔話や中国の故事を読んていきます。レベルはアップしますが、より自然な中国語に触 れます。 講読を通して、中国の文化や習慣についても理解を深めましょう。

到達目標
中国語検定試験のレベルを目安とすれば、検定試験4級～3級の講読文を読めることを目指します。

提出課題
授業でやり残したドリル

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
中間試験は返却し、講評を行います。

評価の基準
次の点を総合的に判断します： 平常点（授業への取り組み） 4 0 % 中間試験と期末試験 6 0 %

履修にあたっての注意・助言他
すでに中国語の学習経験を有し、中国語の基礎を学んだ人―「ブラッシュアップ中国語」を履修した人などを想定しています。中国語ビギナー向けの授業ではありませんので注意してください。 中国語から日本語への翻訳作業が中心になりますので、留学生の人はその点を理解した上で、履修してください。

教科書				
.2冊めの中国語 講読クラス.	劉珏、他	白水社	2300 + 税	9784560069455

参考図書				
.必要に応じて案内します。				

その他
毎回ワークシートを配布します。

授業計画
1. 授業案内 ウォーミングアップ 予習：第1課《自我介绍》を自習する（2時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）（2時間） 2. 第2課 我的家庭 予習：テキストに目を通す。講読文の音声聞き、音読する（1.5時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2.5時間） 3. 第5課 温泉旅行 予習：テキストに目を通す。講読文の音声聞き、音読する（1.5時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2.5時間） 4. 第6課 我的爱好 予習：テキストに目を通す。講読文の音声聞き、音読する(1.5時間)／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2.5時間） 5第7課 交朋友 予習：テキストに目を通す。講読文の音声聞き、音読する（1.5時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2.5時間） 6. 第8課 聚餐 予習：テキストに目を通す。講読文の音声聞き、音読する（1.5時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2.5時間） 7. 第10課 打工 予習：テキストに目を通す。講読文の音声聞き、音読する（1.5時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2.5時間） 8. 第11課 寒假 予習：テキストに目を通す。講読文の音声聞き、音読する（ 1.5時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2.5時間） 9. 第12課 留学 予習：テキストに目を通す。講読文の音声聞き、音読する（1.5時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2.5時間） 10. 日本の昔話 予習：単語の下調べ（2時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）（2時間） 11. 日本の昔話 予習：単語の下調べ（2時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）（2時間） 12. 中国の故事 予習：単語の下調べ（2時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）（2時間） 13. 中国の故事 予習：単語の下調べ（2時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）（2時間） 14. 中国の故事 予習：単語の下調べ（2時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）（2時間） 15. 中国の故事 予習：単語の下調べ（2時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）（2時間）

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
☐	ア：PBL（課題解決型学習）	☐	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
☐	ウ：ディスカッション、ディベート	☐	エ：グループワーク
☐	オ：プレゼンテーション	☐	カ：実習、フィールドワーク
☐	キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、商学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成果の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考